

①区の概況と課題

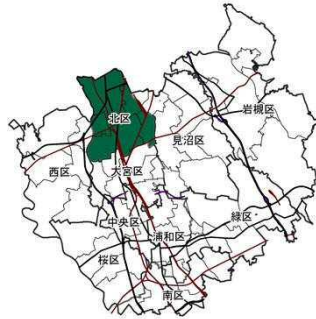
さいたま市防災カルテ



◆区の概要

- 【位置】さいたま市の北部に位置し、上尾市と隣接。
- 【地形】大宮台地上にあり、西部には鴨川が、他に芝川や見沼代用水などが流れる。
- 【土地利用】区の北部に大宮総合食品卸売市場や吉野原工業団地があり、中央部から南部が業務地で企業が多数立地。
- 【交通】国道16号、17号・バイパス等が整備され、JR線や東武野田線、埼玉新都市交通が走っている。

◆全体図



◆防災関連施設情報(区内施設数) (平成26年2月時点)

避難場所	22ヶ所	消防署・出張所	2ヶ所	市役所・区役所	3ヶ所
一時避難場所	31ヶ所	警察署・交番	5ヶ所	支所・市民の窓口	
広域避難場所	0ヶ所	救急病院	3ヶ所	応急給水場所	12ヶ所

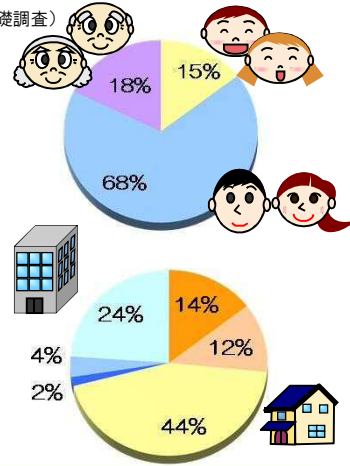
◆区内被害想定結果

地震	さいたま市直下地震	関東平野北西縁断層帯地震	東京湾北部地震			
最大震度	6強 (6.2)	6強 (6.4)	6弱 (5.6)			
最小震度	6弱 (5.7)	6弱 (5.8)	5強 (5.1)			
死者	62人	106人	0人			
負傷者	506人	662人	30人			
避難者	9,062人	14,428人	169人			
全壊建物棟数	2,301棟	4,040棟	8棟			
うち焼失棟数	1,409棟	2,473棟	3棟			
半壊建物棟数	3,975棟	4,609棟	353棟			
水害	荒川	利根川	江戸川	芝川等	綾瀬川等	鴨川等
床上浸水建物棟数	487棟	0棟	0棟	446棟	0棟	205棟
床下浸水建物棟数	765棟	0棟	0棟	1,077棟	0棟	675棟

◆区内人口・建物概況

(人口:平成22年国勢調査)
(建物:平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

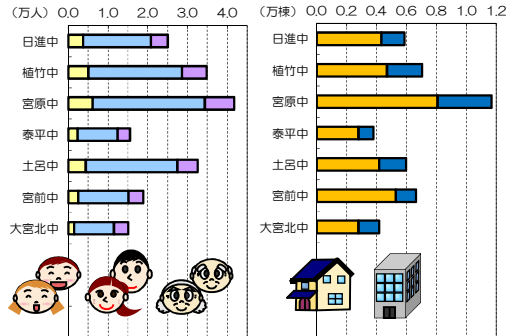
人口等	項目	数値
人口等	総人口	138,630人
	0-14歳	20,175人 (15%)
	15-64歳	93,861人 (68%)
	65歳以上	24,594人 (18%)
	人口密度	8,186人/km ²
世帯数	58,382世帯	
建物	総建物棟数	32,873棟
	木造(昭和46年以前)	4,764棟 (14%)
	木造(昭和47-55年)	3,976棟 (12%)
	木造(昭和56年以後)	14,592棟 (44%)
	非木造(昭和46年以前)	513棟 (2%)
	非木造(昭和47-55年)	1,169棟 (4%)
	非木造(昭和56年以後)	7,859棟 (24%)



◆学区別人口・建物概況

(人口:平成22年国勢調査)
(建物:平成23年度さいたま市都市計画基礎調査)

学校区名	人口	建物棟数
日進中学校区	25,055人	5,872棟
植竹中学校区	34,809人	7,052棟
宮原中学校区	41,807人	11,691棟
泰平中学校区	15,488人	3,789棟
土呂中学校区	32,560人	5,987棟
宮前中学校区	18,893人	6,646棟
大宮北中学校区	15,054人	4,187棟



◆さいたま市直下地震と荒川水害の被害想定結果

地震	日進中学校区	植竹中学校区	宮原中学校区	泰平中学校区	土呂中学校区	宮前中学校区	大宮北中学校区
最大震度	6強 (6.2)	6強 (6.1)	6強 (6.0)	6弱 (5.9)	6強 (6.0)	6強 (6.2)	6強 (6.0)
最小震度	6弱 (5.8)	6弱 (5.8)	6弱 (5.7)	6弱 (5.7)	6弱 (5.7)	6弱 (5.8)	6弱 (5.8)
死者(人)	19	12	13	4	6	17	15
負傷者(人)	106	110	165	48	75	122	88
避難者(人)	4,264	1,144	1,454	482	699	2,314	999
全壊建物棟数(棟)	1,136	234	330	99	148	661	316
うち焼失棟数(棟)	925	46	63	28	42	428	163
半壊建物棟数(棟)	800	823	1,333	383	598	909	590
水害	日進中学校区	植竹中学校区	宮原中学校区	泰平中学校区	土呂中学校区	宮前中学校区	大宮北中学校区
床上浸水建物棟数(棟)	357	0	0	0	0	347	0
床下浸水建物棟数(棟)	392	0	161	0	0	488	0

◆被害想定結果からわかる防災上の主なポイント

- 【耐震化】関東平野北西断層帯地震において多くの建物被害が想定されているため、**耐震化率の向上が必要**。
- 【水害】地域に水害(荒川・芝川・鴨川)の危険性が高いエリアがあり、迅速な情報伝達体制や、自主防災組織等による**安全な避難体制の構築が必要**。
- 【避難】中学校区間で避難者のばらつきが大きいので、**避難場所間の調整方法の検討が必要**。

本カルテは一つの例であり、これを基に防災上のポイントや必要な対策について、家族や地域の方々と話し合ってみましょう。

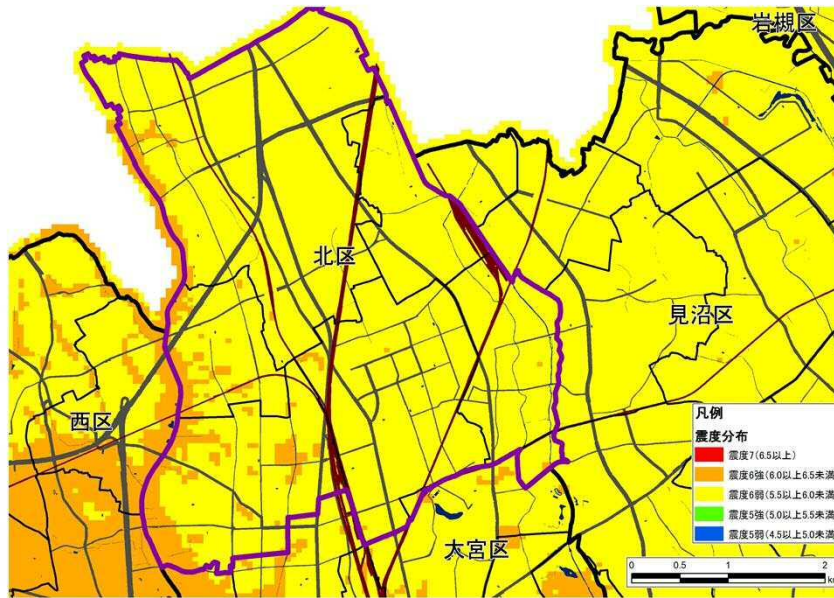
②さいたま市直下地震の想定

さいたま市防災カルテ

北区



震度分布図



液状化危険度分布図



建物被害分布図（揺れによる被害）



建物被害分布図（火災延焼による被害）

